

《医学部 医学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。
 ・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目 (該当科目は○)	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標	
			基礎医学、社会医学及び臨床医学の幅広い専門的知識と高い教養を身につけている。	(1) 生命科学の基本的研究手法、診断及び治療の基本的臨床技能を理解・修得している。	(2) 患者・家族や医療チームメンバーと良好なコミュニケーションをとり、医療チームの中でその役割を果たすことができる。	専門職業人としての高い倫理観と強い責任感を基盤として、国際的視点から向上心と探求心・研究心を持ち、高度先進医療にも地域医療にも対応することができる。		幅広い学習経験を背景に、常に医療の最新情報を収集し、それを実践できる能力を有している。
教養科目群							・人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。 ・人文科学分野（歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など）を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。	
	歴史と文化		◎				○	・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問題を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野（哲学、倫理学など）、行動科学分野（心理学、教育学など）、生命科学分野（生物学、生命科学など）を含む複合的な分野を学ぶ。
	人間と生命		◎				○	・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野（法学、政治学、経済学、経営学、社会学など）を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。
	生活と社会		◎				○	・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	自然と技術		◎				○	・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながらか講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
	ウェルネス総合演習		◎	○			○	・現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
創成科学科目群								・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。 ・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。 ・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。 ・横断的な医療分野の基盤教育と汎用的技能を学ぶ。 ・専門領域における社会的意義を理解し、チーム医療、健康社会づくり等のスキルの獲得を目指す。
	グローバル化教育科目						◎	
	イノベーション教育科目						◎	
	地域科学科目						◎	
	医療基盤教育科目		◎				○	
基礎科目群								・大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。
	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～		○				○	・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	高大接続科目		◎	○			○	・高校レベルの数学、物理学・化学・生物学を勉強しながら、身のまわりの出来事を理解し、さらには基礎数学、基礎物理学、基礎化学・基礎生物学への繋がりを学ぶ。
	基礎数学		◎	○			○	・専門分野での学びに不可欠な基礎学力を身につける。
	基礎物理学		◎	○			○	・基礎知識の習得を目指した講義と、知識と実践の連携を目指す実験・実習を通して学ぶ。
	基礎物理学実験		◎	○			○	
	基礎化学		◎	○			○	
	基礎生物学		◎	○			○	
	基礎生物学実験		◎	○			○	
	基礎教育学		◎	○			○	
	情報科学						◎	・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。

ディプロマ・ポリシー		主要授業科目 (該当科目は○)	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
科目名			基礎医学 社会医学及び臨床医学の幅広い専門的知識と高い教養を身につけている。	(1) 生命科学の基本的研究方法、診断及び治療の基本的臨床技能を理解し修得している。	(2) 患者・家族や医療チームメンバーと良好なコミュニケーションをとり、医療チームの中でその役割を果たすことができる。	専門職業人としての高い倫理観と強い責任感を基盤として、国際的視点から向上心と探求心、研究心を持ち、高度先進医療にも地域医療にも対応することができる。	
外国語科目群							英語や初級外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。
	英語	○	◎		○		・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基礎英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基礎英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	英語以外の外国語科目		◎		○		・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。
専門教育科目	基礎医学(1)	○	◎		◎	○	基礎医学(1)では、解剖学、生理学、生化学および免疫学で人体の正常な構造および機能を学び、細菌学、ウイルス学および寄生虫学で感染症の原因となる生物について学習する。
	基礎医学(2)	○	◎			○	基礎医学(2)では、基礎医学(1)の知識をもとに病理学で疾病の原因や発症機序、疾病による身体の変化を全身的、局所的に学習する。また、薬理学で、生体内外の物質と生体との相互作用を学び、診療・治療に用いる薬物の作用を理解する。
	社会医学	○	◎		○	○	人の健康を物理的、化学的、生物学的、社会文化的環境要因および遺伝要因との関わりの中で理解するとともに、人の健康を守る社会の仕組みや法律、社会的・司法的問題に対する医学の応用について学ぶ。
	医学研究実習	○	○	○	◎	◎	基本的な臨床能力に加えて基礎的な研究能力を備えた学生の育成は医学科の教育理念の一つである。近年、医療技術は格段に進歩し、最先端医療の恩恵をすべての国民が享受できるようになった。しかし、これらの進歩は日進月歩であり、診療に携わる医師は決まりきったマニュアルのみでは、正確な診断・治療を行うことはできない。その際に重要なのは、正確な観察力、深い洞察力・慎重な判断力・毅然とした決断力である。医学研究実習を行うことによって、これらの能力を引き出し、さらに磨きをかけることができる。すなわち、生命科学に対する意識が高い学生の育成は、問題解決能力が高い優秀な臨床医の養成にも繋がるのである。学生は、自ら研究に携わることを通じて、研究の進め方、ラポートの書き方、研究手技(文献検索、データ処理、英文論文読解を含む)ならびに研究倫理を学ぶとともに、医学研究の意義を知る。最後にポスター発表を行い、優秀な発表者は表彰される。さらに、その研究成果について、国内外の学会での発表や論文作成を目指す。本実習は、生命科学研究へのモチベーションの向上と、将来の基礎医学を担う人材ならびに physician scientist の育成を目指す。
	系統別病態診断	○	◎		○	◎	基礎医学と臨床医学が有機的に連関した医学知識(臨床的、基礎的、社会・疫学的、行動科学的)を修得する。自己決定型学習能力、臨床推論を含めた問題解決能力、ディスカッション能力、ならびにプレゼンテーション能力を修得する。
	臨床実習入門	○	○	◎	◎	◎	診療参加型臨床実習の履修に必要とされる基本的な知識(診療現場でのルールを含む)、臨床技能(医療面接、身体診察、基本的手技、臨床推論能力、診療録記載、プレゼンテーション)および態度(医療倫理、医療プロフェッショナリズムを含む)を修得する。
	医学英語	○	◎		○		医療面接の基本となる医学英語の知識を身につけ、患者との円滑な関係作りのための言語的コミュニケーション能力だけでなく、準言語・非言語的コミュニケーション能力も身につける。また医療専門家として必要とされるコミュニケーション能力として、英語でのカルテの記載の仕方も理解する。この授業を通して、医療専門家にとってのコミュニケーションの手段としての医学英語の重要性を認識する。
	診療参加型臨床実習Ⅰ	○	○	◎	◎	○	診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を修得する。
	診療参加型臨床実習Ⅱ	○	○	◎	◎	○	診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の実践的能力を修得する。
	重点セミナー	○	◎			◎	診療参加型臨床実習で学んだ知識および思考法について振り返り、それらをさらに進化させ、問題解決能力を修得する。